

『木をまもる』を 亜熱帯の島から考える

2023年12月9日(土) 14～17時

琉球大学大学会館 沖縄県西原町千原1 **オンライン** zoom 事前登録を →



成長輪が周期的に形成されない亜熱帯常緑樹の樹木生理 谷口真吾氏 (琉球大学)

奄美大島で確認された外来種カイガラムシ *Aulacaspis yasumatsui* によるソテツの被害と対策
川口エリ子氏 (鹿児島県森林技術総合センター)

アカギの異常落葉, 樹冠衰退を引き起こすヨコバイの侵入について
辻本悟志氏 (沖縄美ら島財団), 生沢均氏 (沖縄県緑化推進委員会)

デイゴ・マンゴー・コーヒーノキなど熱帯樹木の萎凋病害と養菌性キクイムシの関与
黒田慶子氏 (神戸大学)

南根腐病の被害実態とその防除の取り組み 伊藤俊輔氏 (沖縄県森林資源研究センター)

久米島に「侵入していた」マツ材線虫病 — 孤島のリュウキュウマツ美林をどう守るか—
中村克典氏 (森林総合研究所東北支所)

琉球列島には、日本本土と同じ種の樹木も多くある一方、中国大陸や南の島々と共通する樹種や固有種も多く見られます。また、亜熱帯の気候帯にあるので、日本本土と同じ樹種でも、その生育環境は大きく異なります。しかも、島々はみな、異なる成り立ちの歴史を持ち、面積や地形も異なり、そこに暮らす人びとの文化も多様です。したがって、本土とは異なる、極めて多様な自然の姿がそこにあります。これは、樹木だけでなく、動物や微生物にもいえることです。

琉球列島は、その地理的条件から、外来生物による新たな病虫害が多発する地域です。海外の有名な病虫害が侵入して同様の被害を起すだけでなく、侵入病虫害だが被害の様相がもとの分布地とは異なるもの、新興病害だが在来の生物によると思われるもの、外来昆虫の被害かと思ったら同時に発生していた病害による被害と分かったものなど、多様な病虫害の姿が見られます。そして、病虫害の防除においても、日本本土とは異なる独自の難しさ、課題があります。

こうして、琉球列島では、そこに生きる生物、発生する病虫害、防除対策のすべてで、「多様性」がキーワードとなるでしょう。このシンポジウムは、6件の報告を重ねて、この多様性について感じ取っていただけるよう準備しました。各報告はいずれも現在進行中の重要な研究課題であり、その最新の知見が分かりやすく紹介されます。樹木の保護に関心のある市民、学生の皆さまから専門家まで、広く興味をもっていただけるものと思います。

コーディネーター

亀山 統一 (琉球大学)

どなたでも無料でシンポジウムにご参加になれます。

後援：一般社団法人日本樹木医学会、一般財団法人日本緑化センター、一般社団法人樹木医学会沖縄県支部

お問合わせ先 樹木医学会第28回大会運営委員会 28taikai@thrs.jp

樹木医学会 事務局 office@thrs.jp FAX: 03-5841-7554 〒113-8657 東京都文京区弥生 1-1-1 東京大学大学院農学生命科学研究科 森林植物学研究室内

写真 久米島の「五枝の松」(国指定天然記念物)

